

## 平成 30 年度第 1 回土佐清水市総合教育会議 会議概要

■開催日時：平成 30 年 8 月 2 日（木）16:00～17:00

■開催場所：市役所 2F 市長応接室

■出席者

構成員：泥谷市長、山下教育委員、竹田教育委員、酒井教育委員、弘田教育長

（山本教育委員、磯脇副市長（オブザーバー）は出張等のため欠席）

事務局：中津学校教育課長、横山企画財政課長、速川学校教育課長補佐、山下企画財政課長補佐

### ◇会議次第【司会進行：横山課長】

#### 1 開会【泥谷市長あいさつ】

#### 2 議事

##### （1）土佐清水市教育振興基本計画Ⅱについて

【中津学校教育課長説明】

「土佐清水市教育振興基本計画」の第 1 期では平成 25 年度から平成 29 年度を計画期間としたうえで、この計画に基づき本市教育のより一層の振興を図るよう取り組んできた。

「土佐清水市教育振興基本計画Ⅱ」は、第 1 期の取組実績や課題を踏まえ、今後、目指すべき教育の基本的な方向性や重点的に取り組むべき行政施策を明らかにして、清水の「教育」のより一層の振興を図るため、教育基本法第 17 条第 2 項の規定に基づき策定。（計画期間は平成 30 年度～平成 32 年度までの 3 年間）

「ふるさとを愛し、ジョン万スピリットを持って日本や高知のみらいを切り拓く人づくり」と「学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かってはばたく子どもたち」を基本理念とし、めざす人間像として「しみず（家族・なかま・ふるさと）を愛し、社会に貢献できる人間」など 3 点を掲げている。この基本理念の目指す人間像を実現するために、①チーム学校により組織的・協同的に目標の実現や課題の解決に取り組める学校を構築する、②厳しい環境にある子どもたちの貧困の世代間連鎖を教育によって断ち切る支援策を徹底する、③就学前の子どもたちの教育・保育環境の整備を進め「生きる力」の基礎をつくる、④県と市教育委員会との連携・協働の充実・強化を図る、⑤安全・安心で質の高い教育環境を実現する、⑥生涯にわたって学びつづける環境をつくる、⑦文化財の保存と活用を図る、以上の 7 つの基本方向を掲げ、さらにこの中に計 40 の具体的施策を盛り込み、これに基づいて取り組んでいく。

##### （2）土佐清水市教育大綱について

【泥谷市長】

大綱に対する考え方について説明。

第 1 期の「土佐清水市教育振興基本計画」もイコール教育大綱と位置付け取組を推進してきた。今回の「土佐清水市教育振興基本計画Ⅱ」についても、第 1 期の基本計画の検証を行い、本市の状況等を鑑みた基本理念のもと策定されており、新たに大綱を策定するのではなく、この「土佐清水市教育振興基本計画Ⅱ」を「土佐清水市教育大綱」としたい。

【市長の大綱に対する考え方について、全会一致で承認】

### (3) 施設訪問を終えて（現状と課題）

【中津学校教育課長説明】

7月2日から4日の間、6小学校、1中学校の学校訪問を行った。

#### 【小学校】

- ・4年ほど前から足摺岬小学校を中心に複式学級の指定授業を行い研究を進めた結果、土佐清水市は複式学級ではリーダー的存在となっているが、さらに上を目指し、研究を進める必要がある。
- ・複式授業が、最近マンネリ化しているように感じるため、先生方の研修を今後行ってほしい。
- ・これまで統廃合を検討する中で、合意にいたらなかった小学校については、建物の老朽化について注視も必要であり、継続的に保護者や地域との意見交換も行っていく必要がある。

#### 【中学校】

- ・統合して6年目になる。統合時は危機感もあったが、現在は子どもたちが落ち着いて授業を受けている。
- ・昨年「縦持ち」という形で授業形態もかえ、一定成果もできていると聞いており、今後更に期待をしている。

#### 【共通】

- ・大きい学校、小さい学校問わず家庭環境に問題を抱えた子どもがいる。
- ・力量の高い教師のノウハウを、組織としてまずは学校全体に伝達し、そして市内に広めることが今後求められる。
- ・全体として小・中学校とも落ち着いて授業が行われている。
- ・国も熱中症の問題などでクーラーなどの施設整備に予算をつけるような話もできている。今後市としても国の動向を見ながら検討していきたい。
- ・給食について、おいしいということで大変評判が良く、残飯がほとんどない。残さず食べている。
- ・9月から始まる給食試食会に、老人クラブや保護者など行きたいという話がよくできている。

### (4) 全国学力・学習状況調査結果について

【教育長説明】

今年度実施された「全国学力・学習状況調査」の結果は、この調査がはじめて以来、小学校6年生と中学校3年生の全市平均（3教科5科目平均）がいずれも県平均・全国平均を上回る結果となった。

平成27年度に調査を受けた当時の小学校6年生が、今回中学校3年生として調査を受けた結果をみると、前回と比べて成績がまったく落ちていないことがわかる。中学校で教師がしっかりと取り組み、生徒が順調に力をつけてきた成果が現れていることが考えられる。今後も更に良くなるよう学校現場とともに取り組んでいく。

(17:00 会議終了)